

第1回 第9次島田市高齢者保健福祉計画等策定委員会 会議要録

日 時 令和2年7月16日(木) 午後7時00分から午後8時10分まで

会 場 島田市保健福祉センター 研修室

出席者 <委員>

- | | | |
|----|--------------------------|-------------|
| 1 | 学識経験者 | 山城 厚生(委員長) |
| 2 | 島田市民生委員・児童委員協議会 | 長野 恭子(副委員長) |
| 3 | 島田市医師会 | 松永 和彦 |
| 4 | 榛原歯科医師会 | 佐塚 仁一郎 |
| 5 | 島田薬剤師会 | 村松 義文 |
| 6 | 静岡県理学療法士会 | 小原 智永 |
| 7 | 島田市保健委員協議会 | 杉山 裕見子 |
| 8 | 島田市自治会連合会 | 増田 文男 |
| 9 | 島田市社会福祉協議会 | 杉本 優子 |
| 10 | 第三小学区地区社会福祉協議会 | 柴田 伸二 |
| 11 | 島田市シニアサポーター協議会 | 伊熊 正勝 |
| 12 | ケアマネットしまだ | 増田 朝美 |
| 13 | 特別養護老人ホーム「ひざり」 | 小山 正晃 |
| 14 | 小規模多機能型居宅介護事業所「あったか広場一会」 | 曾根 寿弘 |
| 15 | 島田市老人クラブ連合会 | 太田 みち子 |
| 16 | 介護相談員 | 寺川 百合子 |

<事務局>

- | | | |
|----|---------------|-------|
| 1 | 健康福祉部長 | 畑 活年 |
| 2 | 長寿介護課長 | 三浦 隆広 |
| 3 | 包括ケア推進課長 | 酒井 敏弘 |
| 4 | 長寿介護課課長補佐 | 村松 徹 |
| 5 | 包括ケア推進課課長補佐 | 太田 佳宏 |
| 6 | 長寿介護課高齢者政策係長 | 杉村 亮 |
| 7 | 長寿介護課認定指導係長 | 河西 智里 |
| 8 | 包括ケア推進課地域支援係長 | 畑中 陽子 |
| 9 | 包括ケア推進課連携推進係長 | 守谷 佳子 |
| 10 | 長寿介護課主事 | 野口 大輔 |
| 11 | 長寿介護課書記 | 藤田 育子 |
| 12 | (株)ぎょうせい 研究員 | 若松 海 |

1 開会

- ・資料確認（①次第、②第9次島田市高齢者保健福祉計画等策定委員会委員名簿及び席次表、③第9次島田市高齢者保健福祉計画等策定委員会要綱、④資料1 計画策定の概要、⑤資料2 アンケート調査結果の概要、⑥資料3 策定スケジュール）
- ・新型コロナウイルス感染防止対策のため、1時間程度の短時間で終了したい。

2 委嘱状の交付

- ・あらかじめ資料と併せて委嘱状を配布した。

3 委員及び事務局職員紹介

- ・委員名簿と席次表にて紹介に代えた。

4 委員長・副委員長の選任

- ・委員長には山城委員を、副委員長には長野委員を選任した。

5 委員長あいさつ

- ・計画を策定することも大事ですが、計画を立てて実践することが重要。ぜひ、島田市らしい計画を立て、決められたことは実行しつつ、さらにより良い計画、島田市として重点的に取り組む内容が含まれる計画になればと思います。また、アンケート調査の結果だけではなく、実際の現場の声を反映した計画となり、施策が一つでも具現化されることが大事だと思います。今後、委員の皆様にも、ぜひそうした観点で意見を出していただきたい。

6 議事

(1) 計画策定の概要について

- ・事務局より資料1を説明
- <質疑応答>
- ・なし

(2) アンケート調査結果報告について

- ・事務局より資料2を説明
- <質疑応答>

委員長： この調査結果が、これからの計画策定の基本となると思います。調査の結果について御質問はありますか。

委員： 5ページの「④今後どのような介護を受けたいかの意向」について、一般に言われているとおり、「自宅で、家族の介護だけを受けたい」と「自宅で、家族の介護を受けながら、ホームヘルパーやデイサービスなどを活用したい」を合わせた“自宅で家族の介護を受けたい”という希望が多く、9ページの「②最後を迎えたい場

所」でも「自宅」という希望が多く、人間の心理として仕方がないところです。

しかし、その分、家族の負担が増加します。そのため、本人を説得して施設利用を促すことも必要になってきます。

また、9ページの「②最後を迎えたい場所」について、島田市民病院でも終末期を穏やかに迎えられようような緩和ケアのサービスが整っているかどうか教えてください。

事務局： “自宅で家族の介護を受けたい”という希望が多いが、その際の家族の負担が大きくなることについては、「第8次島田市高齢者保健福祉計画」にも記載している「家族介護者交流事業」、「認知症家族会」、「家族介護用品支給事業」といった事業を行うことで、介護者の精神的、経済的な支援を行っています。

次に、島田市民病院では、医療機能の分担ということで、新しい病院では緩和ケア病棟を設置する予定は聞いておりません。緩和ケアについては、民間の施設等を利用していただくか、また、市としては、訪問看護ステーションを利用して、医師の医療的指示に基づいた、自宅での看取りなどに取り組んでいます。

委員長： 緩和ケア病棟は、病棟としてはないが、緩和治療は考えられると思います。

委員： 調査対象の実数を教えてください。

事務局： 調査対象の実数については、①一般高齢者調査、②要支援認定者調査、③要介護認定者調査の3つの調査があり、それぞれ1,800票、1,000票、1,200票を郵送で配布しています。

委員： 標本抽出前の送付対象人数はどうか。

事務局： 正確な数値については、手元にありませんが、「第8次島田市高齢者保健福祉計画」に記載している平成29年時点の実績では、要支援認定者数は、670人となっています。また、要介護認定者数は、3,087人となっています。

一般高齢者調査の対象人数については、市内高齢者約3万人から要支援認定者や要介護認定者などを引いた人数になります。

正確な数値については、次回の委員会で報告させていただきます。

委員： 資料2の20ページ「(6)幸福度について」の「幸福度」というのは漠然としていますが、この結果を見ると、要介護認定者は経年変化では0.2ポイントとわずかに減少していますが、グラフを見る限り平均値は高い結果が出ています。

第9次計画策定にあたって、これから具体的な実情を把握することが興味深く感じています。

委員長： この幸福度の指標は、3年前と比較してどのように変化したかを把握することが大事だと思います。これからの対策をどう検討するべきか、本委員会において力点を明確にした計画づくりができればと考えています。

委員： 資料2の12ページ「②地域づくりへの“参加者として”の参加意向」で、「ぜひ参加したい」、「参加してもよい」を合わせた“参加してみたい”が一般高齢者では53.6%、要支援認定者では42.4%となっています。

第9次計画策定にあたって、地域のインフォーマルサービスとして地域づくりへの参加が重要ではないかと思えます。さらに、フレイル対策についても、機能的な部分を地域づくりに落とし込むことが大切だと思えます。

委員長： 地域づくりとして、老人クラブなどは、まさしく地域参加にあたると思えますが、この点について、いかがでしょうか。

委員： 男性の場合、参加したいという意欲があっても、自分から参加される人は少ないです。女性の場合、退職した人や親の介護の必要がなくなった人は積極的に参加されます。

やはり、男性の参加が非常に少なく、グラウンドゴルフなどスポーツをしている人は比較的参加しようと思えるようです。

男性の参加をどうやって増やしていくか、そして、会員の高齢化が進んでいるので、今後若い人が参加していただけると嬉しいです。

委員長： 地域づくりという点では何か意見はありますか。

委員： 第三小学区の地区社協に携わっています。一時期よりもう一段階深く、地域をみんなで守っていくことを目指す時代が到来したと感じています。

委員長： 本計画においては、県や他市町でも行っている事業については、市として責任を持って取り組んでいただき、島田市として、どこに力を入れるべきかが重要になってくると思えます。

そうした点では、「しまトレ」など既に島田市で取り組んでいる事業が、市民にどのように評価されているか、また、私も関わっている成年後見制度をどのようにPRしていくかなど、島田市としてアクセントがある計画になれば良いと思えます。

(3) 策定スケジュールについて

・事務局より資料3を説明

<質疑応答>

・なし

4 閉会

・第2回策定委員会：9月17日（木）保健福祉センター3階研修室にて午後7時から開催予定。